

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	連携型認定こども園ミナパもくせいの
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しています。クラス名を果樹の名前にしており、その果樹が全て植えてある果樹園の園庭があり、また、生き物もメダカや川魚だけでなく、烏骨鶏を飼育していて、産んだ卵を使用した食育も行っています。身近な園環境の中で動植物に出会う場が日常的にあり、"とうきょうすくわくプログラム"ではさらに興味関心の深まりを期待してテーマの設定を『動植物』としました。

2. 活動スケジュール

年間を通して室内に植物などの図鑑や本を準備し、植物に親しめる環境を準備する。また、果樹園に遊びに行き、虫や草木に親しむ。

1 1月：庭師の竹本さんによる果樹についてのお話

1 2月：昆虫ホテル作り開始

1 月：昆虫ホテル完成

完成後、昆虫が住みやすくするために随時落ち葉や枯木を追加。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内に図鑑や本を準備し、動植物に親しめる環境を準備した。

日常の中で北側園庭（果樹園）に遊びに行き、果樹の観察を継続して行った。

果樹園に作る「昆虫ホテル」に入れる枯れ葉、落ち葉、枝などを子どもたちと一緒に集めた。

昆虫ホテル作りのための講師、材料を準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

日々の活動の中で虫に興味を持ち、果樹園で虫を探していた。

秋になると果樹に実がつき、興味を示し、観察したり、部屋の本で調べたりする姿が見られた。外部講師との活動では、少人数のグループで活動し、その中でそれぞれが疑問に思ったことや不思議に思ったことを対話的に学び、果物がおいしい理由について知り、果樹への興味をより深めた。

冬になり、昆虫がいなくなると「虫がない」「どこにいったんだろう」と疑問があり、調べたり年長児との関わりの中で越冬する虫と死んでしまう虫がいることを知る。

昆虫が集まったり、冬を越える時の為の”昆虫ホテル”を制作することを決める。

外部講師を招き、木材を使ってホテルの制作を行う。刃物などは使い方を教えてもらった後、講師や職員と一緒に小グループに分かれて、鋸や金槌、ノミ等の道具を使いながら作成した。完成した後はホテルの中に拾ってきた落ち葉や枝を追加したり、箱の中をのぞき、昆虫が来ていないかを確認しながら遊びを行っている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・日常の活動の中で果樹が実っていることを発見し、果物の種類を考えたり、本で調べる姿があった。また、外部講師に果樹園の果樹について話を聞き、興味を深めた。”鳥や動物たちにたべてもらうことで、その糞によって種を遠くまで運ぶ”為に果樹がおいしくなっているという説明に、「だからおいしいのか!」と納得していた。また、様々な木で果樹が果樹でないかのクイズを楽しんだ。

昆虫ホテル作りでは様々な道具を使いながら、「ちょっと難しい」「完成するの楽しみだね」「どんな昆虫が来るかな?」と子ども同士話しながら作業をする姿が見られた。「押さえて」「こっちもやって」など、自分たちで考えて作業を進める姿も見られた。

完成後、果樹園に遊びに行くと必ず中を確認し、「まだ何もいないね」「もっとはっぱ入れる?」など、どうすれば虫が来るのかを友だち同士で考え、工夫する様子もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

興味関心のあることについて外部講師の方に話を聞くなどの機会ができ、とても良かった。

日常的に調べたり何となく理解していることでも、専門家の話を聞くことで、子ども達もより楽しく疑問を解決したり、新たな興味を持つなど、活動に広がりができた。実際に果樹を見て回りながら話を聞くことで自園の環境についての興味や愛着を持てる貴重な時間だったと思う。子どもたちが作った「昆虫ホテル」があることで果樹園に行く目的が増え、その都度季節を感じることもできていてとても良かった。鋸や金槌などの道具を使う姿を見守るのは少し怖い気もしたが、回数を重ねることで子ども自身が使いこなしている様子が見られて良かった。